



わたしの主張「ゴミのポイ捨て」

～伊豆の国市わたしの主張発表大会より～

11月25日(土)に、萑山時代劇場にて、伊豆の国市わたしの主張発表大会が行われました。本校から3年生の藤井愛美さんが発表を行いました。ゴミのポイ捨てがどんなによくないことなのか、身近な視点から、グローバルな視点から、さらに持続可能な社会づくりの視点からも明快な主張があり、場内の人たちを納得させていました。以下、主張文を掲載します。ゴミをポイ捨てせず、環境美化をし、リサイクルし、長岡がすばらしいふるさととしていつまでも持続発展していくようにしていきたいと改めて思いました。

「ゴミのポイ捨て」

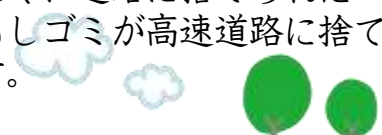
3年生 藤井 愛美

なんでゴミがここにあるの。ポイ捨てされたゴミを見る度にわたしはこう思います。案外ゴミのポイ捨ては身近にあって、通学路の地下道や道沿いの畑、公園や放水路にもありました。同級生がポイ捨てをした時は、かなりショックでした。でも、それを注意できない、注意してくれない、自分と周りの同級生、周りの人に対して、すごく腹が立ったのを今でも覚えています。中学1年生になって行動範囲が広がった時から、私はこういう捨てられたゴミによく出会うようになりました。ゴミ箱がない公園などは特に多いです。でもゴミ箱がないからその辺に捨てていいわけではないと思います。私はゴミのポイ捨てが嫌いです。それに、ポイ捨てする人たちも嫌いです。見るだけで不快です。最近見たポイ捨ての中で一番不快に思ったのは、赤信号で停まっていた目の前の車のドアがいきなり開いて、道路にタバコの吸い殻を捨てていったことです。ちょっとした間に起きたことだったから理解が追いつかなかったけれど、その後すごく嫌な気持ちになりました。



そういうことから、ゴミのポイ捨てがいけない第一の理由は、みんなが不快に思うからだと思います。通学路などの道にゴミが落ちてると地面に気が向いてしまい、下を向いて歩くと暗い気持ちになってしまいます。そうすると、楽しいはずの友だちとの会話が残念なことになってしまいます。公園で遊んでいるときにポイ捨てされたペットのふんなんて踏んでしまった人の気持ちは最悪になってしまいます。

第二の理由は、事故につながるかもしれないからです。捨てられたゴミをよけて歩くと後ろから来た自転車にぶつかってしまうかもしれません。もっとよけて歩いたら、自動車にぶつかる可能性もあります。これは歩行者だけのことでなく、道路に捨てられたゴミをよけて事故に遭ってしまう自動車もいるかもしれません。もしゴミが高速道路に捨てられていたら、もっと大きな事故につながってしまうと思います。



第三の理由は、環境破壊につながるからです。ポイ捨てされたゴミが最後にたどり着くのは海だと聞いたことがあります。ビニールやプラスチックは土にかえらない、永遠に残るわけです。そういったゴミを餌と間違えて食べて死んでしまう生物が多いそうです。もしもウミガメが死んだ理由が、自分がポイ捨てしたビニールを食べたことだとしたら、間接的にその人はウミガメを殺しているのと同じだと思います。



第四の理由は、ポイ捨てされたゴミはリサイクルができないからです。ペットボトルやアルミ缶は、ちゃんと分別することで再利用できます。アルミ缶1個で1円から3円に相当するので、アルミ缶を1個捨てるとその分のお金を捨てているのと同じだと思います。細かいと思うかもしれませんが、そのリサイクルの積み重ねが環境保全につながっていくので、大切にしてほしいと思います。

ゴミのポイ捨ては、完全になくすことはできません。ですが、捨てられたゴミを拾う活動は増やすことができます。一人一人が少しずつでもゴミのポイ捨てについて考えれば、ゴミの量を減らすことにつながって、「ちりも積もれば山となる」ということわざがあるように、環境を守ることができると思います。さらに私が考えるのは、長岡の将来です。私が住んでいる伊豆長岡は観光の町です。韭山には世界遺産の反射炉もあり、以前よりも観光客が増える傾向にあると思います。この地域が持続可能な発展を遂げていくためには、目立つものの宣伝や目立つ施設の整備だけでなく、地域住民の心からのおもてなしが大切だと思います。そのおもてなしには、外国の方が話しやすい環境を整えたり、宿泊される方が心休まる宿泊施設を整えたりすることもあると思いますが、地域住民のゴミ問題に対する意識の向上によって、おもてなしの心を伝えることが大切だと思います。日本人がサッカー一競技場をきれいにして帰るマナーのよさが世界的に評価されるニュースがありました。そのように世界のお客様をお迎えする立場で、足下からきれいにすることが大切だと思います。



私は同級生のゴミのポイ捨てを注意することはできませんでした。でも、そのゴミを拾うことはできました。私の訴えから、ゴミを拾う人が増えてくれたらいいと思うし、それを見て捨てる人が減ってほしいです。ゴミを触るのが嫌だとか、ゴミを自分で持っていきたくないと思うかもしれないけど、私はこれからも捨てられたゴミを拾って、ゴミのポイ捨てについて考えてもらえるように、行動で呼びかけたいと思います。

3年生 放課後の補習及び自主学習のようす

進路目標に向けて頑張っています。



<各大会・コンクールの結果>

- 柔道部・・・第59回静岡県柔道祭県大会 中学男子の部 第3位
- 剣道部・・・第1回飯塚杯争奪三島剣道大会 中学生女子団体戦 第3位

◎平成29年度児童生徒理科研究作品審査会

- | | | |
|---------|---------------|------------|
| 入選 | 題名「人にみがかれた金属」 | 土屋 元希 (2年) |
| 入選 | 題名「水のろ過実験」 | 平山 友代 (1年) |
| <共同研究者> | | 堀野 結希 (1年) |



※理科研究については、田方地区内でこの2研究のみ入選しています。